

四常任委員会でも先進地視察

参加した党議員の感想



埼玉県深谷市の児童養護施設

また、壁の補強などで、事故防止と修繕費用の節約に努めている点、県内外の類似施設との職員レベルでの経験交流に努めている点などを学びました。

群馬県の施設では、事情で現場の職員の声が反映されない設計であることが、使い勝手に大きく影響していることから、現場の職員の意見がリアルに反映される設計が必要であることを痛切に感じてきました。

【樋口議員の感想】建設企業常任委員会は8月2～4日、北海道の恵庭市、岩見沢市、小樽市を視察してきました。

このうち岩見沢市では、駅周辺地区、駅前通整備事業を現場視察しました。その中で特に興味を持ったのは、複合駅舎です。石炭産



岩見沢駅舎のレンガ壁

業の発展を背景に物資輸送の要衝として栄えた「鉄道のまち」岩見沢。2000年に木造駅舎が焼失しましたが、再建にあたっては、駅舎が「まちの顔」となるよう工夫がしてありました。そのひとつは、赤レンガと古レールを用いたことです。これらは、岩見沢が最も活気に溢れた明治・大正の記憶を未来に伝える素材として活用したとのことです。さらに、駅前広場には市民から募集した刻印レングが敷き詰められています。



奈良市で説明を受ける一行

【橋爪議員の感想】総務常任委員会は西宮市、奈良市、池田市で視察をしました。

このうち、奈良市では昨年度、今年度と二度にわたって実施した「事業仕分け」について報告を受け、意見交換してきました。

「事業仕分け」は厳しい財政状況のなかで効率的な行政運営をめざすための手法のひとつですが、ここでは、「外部の視点での議論を通じて」事業の要・不要

などを仕分ける難しさを感じました。そもそも、市外の専門家などが事業のことを十分把握できるのか、30分や40分の議論で正しい判断が出来るのか、大いに疑問を感じます。実際、同市の昨年度の事業仕分けで「不要」と判定された事業が、今年度の予算編成では「改善しながら実施」とされた事業が7事業もあったのです。

この他、「事業仕分け」の対象事業をどのように選ぶかについても、説明を聴くかぎりでは簡単ではないな思いました。市民が「これを対象にしてほしい」という事業をどう絞り込んでいくのか、その客観的な基準がまだ確立されていないようにも思えました。

【上野議員の感想】文教経済常任委員会は委員会視察の2日目に伊賀市を視察しました。

三重県は私たちの視察した2市だけではなく、桑名市や津市、松阪市、名張市など多くの市町村でも学校給食への地場産食材を積極的に採用し、安全・安心、美味しい給食の提供を通して食育を進めています。

その中でも視察した伊賀市は特に進んでいます。中学校はセンター方式ですが、小学校は全て自校方式で、市内統一献立ではなく、地域や学校の実情に合わせて柔軟な献立を作成し、食材仕入れについてもその地域から出来るだけ多く採用することにしています。

生産者組合や地域の組織、特にJAとの連携はしっかりととれています。上越市は市内統一献立、一括発注方式を採用しています。そのために各単一校の状況に合わせた発注方式はとれず、したがって地元生産者との密接な関係はそれほどつくられてはいません。今回の視察で、地元の生産組織、特に女性部会やJAの役割は大変勉強になりました。

上越市でも伊賀市のように地域や各校に合わせた献立の作成と地域の連携による地場産食材の積極的採用まですすめていきたいものです。



伊賀市役所での視察風景

日本共産党上越市議員団ニュース

No.245

2010年8月22日

- | | | | |
|-----|--------|----------|----------|
| 連絡先 | 橋爪 法一 | 548-3628 | (吉川区代石) |
| | 樋口 良子 | 544-6802 | (中門前3) |
| | 上野 公悦 | 530-2203 | (頸城区中柳町) |
| | 平良木 哲也 | 525-9096 | (上中田) |